

# 我が国周辺水域資源評価等推進委託事業 資源動向調査（タチウオ）

住友寿明・中西達也

本事業の目的は、我が国周辺水域における主要魚種（TAC対象種、資源管理計画対象魚種等）の資源評価に必要な科学的データの収集と資源動向の的確な把握である。それらの科学的根拠によって資源管理の施策を推進する。このうち、資源動向調査では、資源管理指針対象魚種、広域重要魚種、栽培対象魚種について、漁業と資源の現状、資源回復に関する管理施策、種苗放流による効果等の調査を実施する。徳島県はタチウオを担当し、操業実態調査と資源動向調査を実施した。

## 方法

### 操業実態調査

海域毎（紀伊水道、太平洋、播磨灘）におけるタチウオの漁獲について、漁獲集計システムを導入している9漁協のデータをまとめた。主要漁法である延縄と小型底びき網については、9漁協のうち代表2漁協の漁獲量をまとめた。

### 資源動向調査

長期的な資源動向を把握するため、徳島県における昭和31年以降の漁獲量を「漁業・養殖業生産統計年報」から求めた。漁獲集計システムを導入している9漁協のうち、漁獲物の全量を漁協へ水揚げし、全船がほぼ同時期に同じ漁具を使ってタチウオを狙う代表1漁協のCPUE（kg/日・隻）から資源動向を把握した。

## 結果

### 操業実態調査

タチウオの漁獲は紀伊水道、太平洋、播磨灘で見られるが、紀伊水道が主要な漁場である。平成12～27年の漁獲量を海域別で比較すると、漁獲量の78%が紀伊水道、22%が太平洋に位置する漁協で水揚げされており、播磨灘では漁獲実態がほとんど無い（図1）。紀伊水道におけるタチウオの主要な漁法は延縄と小型底びき網であり、代表2漁協で水揚げされるタチウオの46%が延縄、54%が小型底びき網で漁獲される（図2）。

### 資源動向調査

徳島県におけるタチウオの漁獲量は年変動が大きく、平成5年以降は減少傾向で推移している（図3）。1～12月における延縄のCPUEは、平成20年以降20～58kg/日・隻で推

移し、平成27年は前年比69%の23kg/日・隻だった（図4）。とくに、主漁期である1～3月のCPUEの減少が目立った。1～12月における小型底びき網のCPUEは、平成20年以降7～49kg/日・隻で推移し、平成27年は前年比130%の49kg/日・隻だった（図5）。とくに、比較的まとまって漁獲される9～12月のCPUEが前年同様高かった。

## 考察

### 資源状態

タチウオの漁獲量とCPUEを指標として、資源水準および資源動向を推定した。平成12年以降の漁獲量から判断すると、資源水準は今なお低位である。平成27年における延縄のCPUEは、近年としては好調だった昨年を下回ったが一昨年並みだった。平成27年における底びき網のCPUEは、昨年並みだった。このことから、資源動向は横ばい程度であると考えられる。

### 資源管理の方法

現在、タチウオの資源水準は低位であることから、同海域で本種を利用する和歌山県と連携して管理する必要があるが、調整を図ることは難しい。管理方策の策定に備え、必要となる資料を積み上げることが必要である。

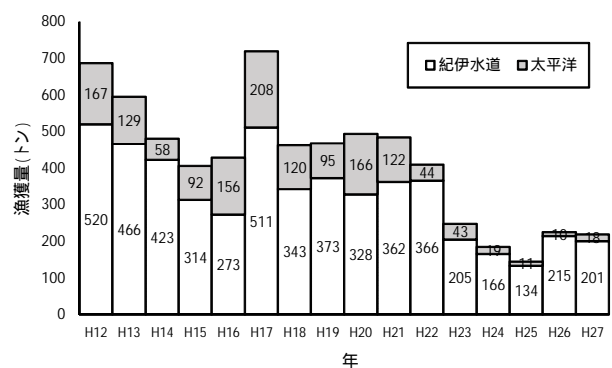


図1. 海域別漁獲量の経年変化

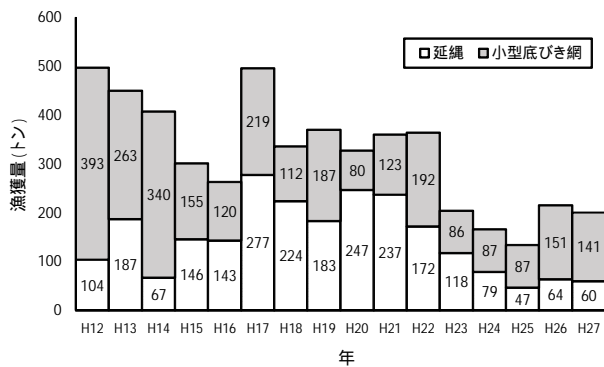


図2. 主要漁法別漁獲量の経年変化

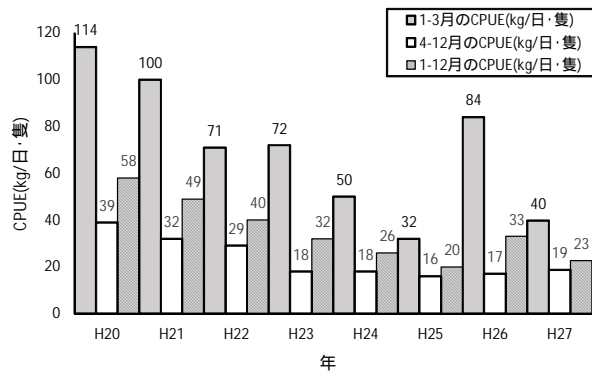


図4. 延縄によるCPUE (kg/日・隻)の経年変化

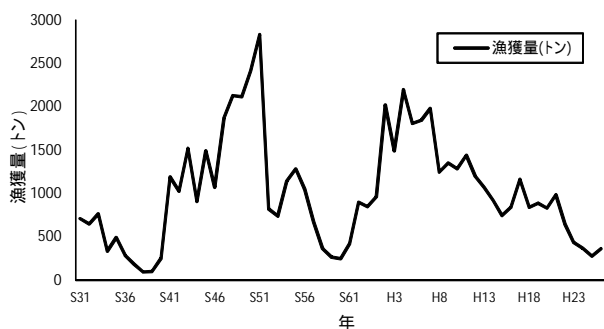


図3. 漁獲量の経年変化 (漁業・養殖業統計年報)

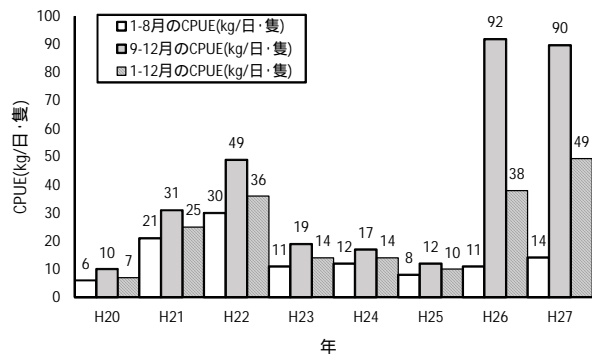


図5. 小型底びき網によるCPUE (kg/日・隻)の経年変化